藤岡　緑　議員

保育士さんのガードでさらに安全を

どう守る、保育園や幼稚園児の安心・安全を

問 最近、幼い子どもを巻き込む交通事故が増えている。保育園や幼稚園などの園外活動中における子どもたちの安全、安心をどう守っていくのか、町の考えを問う。

①町立保育所では

②幼稚園児の通園、園外活動における交通事故対策は

答 山田福祉課長

①予めお散歩コースを定めたマップを作成し、事前に現地確認を行い、危険箇所や注意すべき場所を再確認し、時には安全性の高いコースに変更することもある。

毎月の保育士による交通安全指導で、子どもたちに交通安全の習慣づけをする。

子どもの送迎を行う保護者にも交通安全の意識づけを目的に、伊予警察署職員を講師に迎えて講話を実施している。

今後地域の方々との連携をさらに深め、保育所と地域が一緒になって子どもたちを見守り、安全を確保する体制づくりを進めていく。

答 住田学校教育課長

②今まで発達段階に応じて、園児に交通ルールや道路の歩き方、登園、降園時の保護者との手つなぎ習慣など安全指導に努めてきた。

今回の事例から、園児の命をまもる体制づくりを強化して、園外活動の経路見直し、特に危険箇所や歩道の広さ、交差点の数など事前確認を入念に行うようにする。

更に引率する見守りの増員、教員や引率者の役割分担を明確にし、安全確保に努めていく。

小・中学生の利用する通学路の安全対策は

問 川崎市の事件を受けて、登下校時に子どもの利用する通学路は、交通事故や不審者からの危険回避ができているか、町の考えを問う。

答 本馬教育長

今回の事件を受けて県庁にて協議し、学校、保護者、地域、行政などが連携し、子どもの見守り活動を継続的に行うことの大切さを確認した。

町では次の二点につき新たに対応を図っている。

①各小学校の集団登校の集合場所、時刻、人数、見守りの有無等を調査した。その結果、3つの小学校で通学班の数は200で、集合時に見守りが常時行われている班数は95、時々は45、全く行われていない班数は60だった。この情報を共有して手薄な場所など、見守り強化を早期に始める。

②伊予警察署による不審者情報を基にマップ化して、不審者が多く出没する場所の重点パトロール活動などで防止策としていく。